

2023年 10月 16日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	山本亜由夢		所属	油絵研究室
			職位	助教

研究課題	中国美術の過去から現代に触れる
研究先機関	敦煌莫高窟・798 芸術区・上海博物館・エムプラスなどの美術館及びギャラリー
主な滞在地 (国・都市名)	中国 (敦煌・北京・上海・香港)
渡航日程	2023年8月2日～2023年8月16日 (15日間)
研究目的・理由	中国はアジアの美術の中でも歴史が長く、貴重な建造物美術が残されている。また現代への発展も著しく現代美術にも国全体が力を入れている。研修を通し、中国の美術を多角的に捉えたい。
研究成果発表予定 (展覧会、著書、論文発表等)	2023年11月の研究成果展にて発表予定。

研究内容

中国の敦煌市にある莫高窟は4世紀～14世紀という長い時間をかけて建設された仏教建築であり、現在は世界遺産に登録されている。492の石窟があるが、大きい石窟、小さい石窟、仏像の数など石窟によって個性があった。夏は繁忙期なためその中から8つを選んで、現地のコーディネーターに連れられながら巡る形式であった。また最初に拾いプラネタリウムにいた映写室にいき莫高窟の歴史、内部のVR映像を鑑賞した。

入って驚いたことが2つある。

一つ目は壁画の密度である。壁に余白を作ることを悪いとしているかのように、描かれているものの一つ一つ単位が細かく、さらに同じモチーフをびっしりと並べて描いてあることで、石窟全体に圧迫感や緊張感が漂っている。中に入ると全面に絵があり、絵に包まれている感覚があった。

もう一つは色の退行が感じられないことに驚いた。顔料の退色の一番の原因は日光である。しかし莫高窟では入り口が小さく狭い廊下をとったあとに仏間があるので火の光が入らない作りになっている。また、入る時には自由に出入りできるわけではなく、コーディネーターが鍵を管理し最低限しか日差しを入れないようにしている。そのため他の文化遺産では見られないほど、鮮やかに当時の色が残っている。一番鮮やかに残る青色はラピスラズリという高価な鉱石を顔料にしたものであり、塗り直しのな铸件と思えないほど当時の発色が残っていた。

莫高窟の見学の後、上海、北京、香港と現代美術の美術館とギャラリーを中心に鑑賞した。ギャラリーの文化は日本より活発で、地域一帯にギャラリーを集合させ、休日には若者を中心に賑わいを見せていた。また美術館もコレクションが充実し、企画展のインストールにも大きな予算と人手をかけており、国全体がアートに力を入れていることが感じられた。

莫高窟は海外研修のなかで最初に訪れた場所であったが、他の場所で美術に触れるたびに中国美術の根底はここにあるという確信が深まった。びっしりと書かれた壁画は作者個人のパーソナリティは希薄だが、たくさんの方が多くの時間をかけて作られてたことがとが一目で伝わり、集合知的な強度とスケール感があった。

現代美術においても個々人の内省を探るというよりは、コンセプトも政治的であったり、社会問題を取り扱ったものが多いように感じた。またコンセプトをメインにしながらもビジュアルは派手で、視覚的に驚くような仕組みを用いた作品が多いことも特調だと感じた。以前から留学生の絵画は赤や黒の多用、ダイナミックな筆致が目立つと思って絵を見た時に瞬間にわかるようなインパクトを求めてことなのだとなつと納得した。

そして同時に当然美術だけでなく、中国という国の個性と強く結びいていると感じた。見た目派手さとはっきりとした主張、どこにいてもエネルギーを感じる国は、同じアジアでも自分が普段いる日本とは全く違うように思えた。

大学授業における
研究成果の還元

11月の研究成果展ではこの研修から着想得て制作した作品を、大学という場で展示することが学生への還元につながると感じている。
中国の美術で特徴的だと思ったことの一つに装飾の要素がある。敦煌の歴史博物館に尋ねた際、レンガ一つ一つに絵を描いたものが積み上げられて家を建てていたということがとても珍しく感じられた。
また莫高窟では小さい仏の絵数百体並べて描き、一つの大きな模様のように壁を埋め尽くしていた。

この“細かい単位で、大きいものつくる”というのが自分の作品でもうまく活かせないかということを考えている。私は絵の中で細かい模様やモチーフをいれこみ空間を複雑化させている。しかし絵が複雑になるにつれ絵の全体感が散漫になってしまったり、見づらい絵になってしまうところに問題を感じていた。洞窟壁画は小さい単位ながら全ての要素が絵を構成するため、絵を完成させるための役割に徹しているようだった。そしてそれが結果的に絵全体の強度になり、見る者に有無を言わせぬエネルギーを感じさせているように感じる。

自分の絵では違う要素を入れる時は外しの役割として入れ込むことが多い。それは絵がひとつの目標に向かって動いていることが、なんとなく怖くなってしまふからである。外しをいれるのは正面から絵を描くとあまりに露骨すぎて、見る人が単純に見えてしまう(そして自分が描きたいものも本当は単純ということ自覚してしまう)恐怖へに逃げでもあるといえる。単純であるということは複雑さを目指す自分の絵画にとって危機とも感じられる。

ただ実際に洞窟壁画を始め中国美術に触れて感じたことは、大胆さと物量が作品の強度を作っているということだ。一目で見て伝わるインパクトは単純より簡潔という印象でその作品の立ち位置を示している
自分の制作においてもこのような簡潔さを取り入れ、主張をもう少しわかりやすく押し出せるようにしたいと考えている。もちろん今までの細かい機微や内向的な要素も残しつつ、それら全てが大きな中心に向かっていくように絵を向けられればと思う。

私は今年度で退任であるが残りの在任期間、担当学生とたくさん話し、今回の学びや経験を伝えていきたい。特に現在担当学生の10%は中国からの留学生であり、この研修を通して海外で学ぶことの難しさ、日本と中国の違いに多く気づいたので、彼らに対してより実感をもってサポートできるのではないかと考えている。

研究日程（全滞在期間）

出発日 (現地時間)	出発地 (国・都市名)	到着日 (現地時間)	到着地 (国・都市名)	研究内容等	滞在 日数
8/2 8:00	東京・羽田	18:00	中国・敦煌	敦煌莫高窟にて 洞窟 壁画の研究、及び周辺 の歴史的建造物 を鑑 賞	
8/5 15:00	中国・敦煌	19:00	中国・北京	798 芸術区を中心に現代 美術ギャラリー、美術 館をめぐる	
8/9 12:00	中国・北京	17:00	中国・上海	上海歴史博物館、上海 美術館な王道の美術館 を回りつつ、新興のギ ャラリーや私設美術館 を回る。	
8/13 12:00	中国・上海	14:00	中国・香港	エムプラス・各所ギャ ラリー	
8/16 15:15	香港	20:25	東京・羽田		
備考	日本の往復以外は別途 出張補助申請にて申請予定				

以上

- ※ 欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。
- ※ その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。













